細則様式第４号

論 文 審 査 及 び 最 終 試 験 結 果 報 告 書			
氏　　　名	髙瀬　園子		
入 学 年 度	平成　２８　年度	学 籍 番 号	１６ＧＧ６０３
領　　　域	看護学	分　　　野	

審査委員		
審 査 委 員	主　　査	工藤　せい子
	副　　査	齋藤　久美子
	副　　査	和田　一丸
	副　　査	西沢　義子

論文題目：　看護学生の職業的アイデンティティと学習意欲に関する研究

審査結果要旨：本研究では職業的アイデンティティ形成に向けた教育的支援に対する示唆を得るために、研究Ⅰでは職業的アイデンティティに影響する個人特性と学習意欲の関連について、研究Ⅱでは看護学生が捉える看護職のやりがいと不安の実態について、北東北地方の看護系大学に在籍する 1～4 年生 1,892 名を対象とし、自記式質問紙調査法を用いて調査した。学習意欲は従来の学習動機づけを連続的に捉えた Deci&Ryan の自己決定理論の視点から究明した。

研究Ⅰでは、1 年生の職業的アイデンティティ得点は 2・4 年生に比べ有意に高かった。共分散構造分析の結果、職業的アイデンティティに影響する正の要因は、①志望動機「看護興味」、②職業モデルの有無、③自尊感情、④内発的調整、⑤同一化的調整であった。媒介分析では上記①②③から④⑤を媒介し職業的アイデンティティに影響する間接効果がみられた。多母集団同時分析によるモデル適合は良好で、学年別の媒介分析では 1・2 年生は①、3 年生は①②、4 年生は①②③から④⑤を媒介し職業的アイデンティティに影響する間接効果がみられた。

研究Ⅱでは看護職としてのやりがいや就職することへの不安内容についてテキストマイニング手法を用いて言語解析を行った。職業的アイデンティティ得点はやりがいのある学生は有意に高く、不安のある学生は有意に低かった。看護職のやりがいは全例で,【患者からの感謝】【臨地実習での受け持ち患者の看護】【看護技術の修得と向上】【看護の学び】のカテゴリーが抽出された。不安については 1～3 年生【患者の命や看取りに関わる】、2・3 年生【看護技術の習得と実践】、3 年生【根拠に対する知識不足】、4 年生【緊急時の対応】のカテゴリーが抽出された。

以上の結果を総合すると、学年進行に伴う職業的アイデンティティ得点の低下は、むしろ学生自身が看護の現実と向き合い、職業的アイデンティティが形成されていることが推測された。

審査論文ではこれらの研究内容について系統的かつ過不足なく論述されており、新たな知見を含んでいることが認められ、学位審査会における質疑応答も適切であった。

以上により、本論文は博士(保健学)の学位論文に値すると認められた。

最終試験　　　平成３１年　１月　２５　日

試験の結果は　合　格（circled）　・　不 合 格　と判定する。